

令和2年7月

普及活動報告

今年産の豆の生育は？～豆類定点調査を開始～

(全域：1日)



6月21日定植の黒大豆



異なるは種・定植日の定点を調査

管内の主要作物である黒大豆と小豆の生育状況や作柄を把握するため、毎年定点調査を行っています。今回は黒大豆について、3班に分かれ、1地点当たり5株を抽出し、主茎長、主茎節数と1次分枝数を調査しました。

直は栽培では、は種時期の天候によって発芽揃いが良くないほ場も見られたものの、全般的に生育は良好でした。病虫害が確認されたため、今後、注意を喚起していく予定です。

次回は1か月後の8月3日に調査し、小豆は9月から調査する予定です。

場 所 管内計15地点

出席者数 12名

南丹農業改良普及センター管内 令和元年産黒大豆栽培面積：112.2ha

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年7月

普及活動報告

気象と生育に応じた栽培管理を～「あぜ道相談」を開催～

(南丹市：1～3日)



栽培管理のポイントを説明



ほ場で生育状況を確認

南丹市園部町で「あぜ道相談」が開催され、水稻の生育状況と今後の栽培管理のポイントについて説明した後、参加者のほ場で生育状況を確認し、質問等に答えました。普及センターからは、重要害虫である斑点米カメムシ類の生態や防除方法について説明しました。

参加者からは、斑点米カメムシ類の防除や園部産コシヒカリ「京みのり」の管理方法等について質問が出されました。

普及センターは今後も、関係機関とともに、安定生産に向けて支援していきます。

場 所 南丹市園部町
出席者数 57名

南丹市園部町では、今年度13地区であぜ道相談を開催（普及センターは6地区に参加）

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年7月

普及活動報告

高品質な伏見とうがらしの出荷に向けて ～出荷目合わせ会を開催～

(京丹波町：8～10日)



生産者同士で厳正に点検



出荷規格を確認

京丹波町各地区で、本格的な出荷を迎える前に伏見とうがらし目合わせ会が開催され、JA担当者から昨年度出荷実績や市場情勢などの報告の後、普及センターからはほ場排水の徹底や大雨時の対策と病害虫防除や尻腐れ果、アントシアン果の発生軽減対策について説明しました。目合わせ会では、実際に出荷された品物を見ながら、出荷規格を確認しました。

参加者からは、追肥や天候不順時の病害防除方法、障害果対策の資材活用方法や出荷基準について活発な意見交換が行われ、伏見とうがらしの高品質な出荷に向けて有意義な取組みとなりました。

場 所 京丹波町各地域

出席者数 39名

令和2年度 京丹波町伏見とうがらし栽培者：44名（うち新規4名）、面積：約150a

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年7月

普及活動報告



は種・生育状況を確認

特産京壬生菜の生産振興に向けて栽培農家を巡回 ～南丹市日吉町～

(南丹市：10日)

JAの営農指導員とともに京壬生菜を出荷している生産農家を巡回し、は種や生育状況について確認した後、今後の太陽熱消毒の方法やモグラ対策、病害虫防除等について助言しました。

普及センターは、今後もJAとともに月2回程度生産農家のハウスを巡回し、生育状況を確認しながら支援していきます。

場 所 日吉町内生産農家ほ場

南丹市日吉町：令和元年度部会員21戸、生産量43.7t、栽培面積（ハウス）240a

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年7月

普及活動報告



看板で中干しを呼びかけ



計測結果をその場で書き込む

掲示板設置で適期中干しを呼びかけ ～「京の輝き」の生産安定に向けて～ (亀岡市・南丹市：14日)

穂数型品種の「京の輝き」生産安定のため、看板を設置して生産者への中干し適期の周知に努めました。

展示ほでは茎数を定期的に計測した後、看板に掲示し、㎡当たり380本の茎数を確保してから中干しに入るよう呼びかけました。

当初、研修会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止対策等により開催は断念し、看板に掲示する方法としました。

近隣の農家にPRでき、展示ほの書き込みに注目しているとの声が届いています。

場 所 亀岡市旭町、南丹市園部町

南丹地域の「京の輝き」生産状況 75戸、76ha

基準反収 (511kg/10a) 確保農家を63%から80%にアップさせることを目標としている

令和2年7月

普及活動報告



数人ずつ交代で出荷物を確認



今後の管理について普及センターから説明

高品質な万願寺とうがらしの出荷に向けて目合わせ会を開催 ～南丹市日吉町～ (南丹市：16日)

JA京都日吉支店野菜部会が万願寺とうがらし出荷目合わせ会を開催しました。

京都青果から市場情勢などの報告があった後、普及センターから病害虫防除や尻腐れ果対策、整枝・剪定等今後の管理のポイントについて説明しました。目合わせでは、実際に出荷された品物を見ながら、出荷規格を確認しました。

出荷物について生産者がそれぞれ等級を判断し、評価がバラついたものを再度確認することで、出荷規格の目合わせができました。普及センターは今後も関係機関と連携しながら、良質な万願寺とうがらし生産に向け支援していきます。

場 所 JA京都日吉支店
出席者数 23名

南丹市日吉町 万願寺とうがらし生産者：22名

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年7月

普及活動報告

京丹波町で「京の輝き」・WCS用イネに 「液肥」を施用～地域バイオマスの有効 活用を目指して～

(京丹波町：16日)



液肥を水口から流し込む様子



液肥のサンプリング

南丹普及センターでは、調査研究課題として京丹波町とともに「液肥」利用の検討に取り組んでいます。今回はWCS用イネ「夢あおば」ほ場に10a当たり4トンの液肥を穂肥として施用しました。

「京の輝き」とWCS用イネにおける田植後40日の生育調査を終え、出穂20日前を目途に「夢あおば」ほ場に追肥を行いました。普及センターは液肥のサンプリングを行い、液肥に含まれるアンモニア態窒素・硝酸態窒素量の分析を行う予定です。

今後は出穂期・収穫前に生育調査を行い、慣行区と比較して液肥の効果、適切な施用量等を検討していきます。

場 所 京丹波町丹波地区

出席者数 7名

京丹波町は町内バイオマス有効活用のため「メタン発酵・堆肥化複合施設」の建設を検討中

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年7月

普及活動報告

特産黒大豆の生産振興に向けて ～日吉町で黒大豆栽培研修会開催～

(南丹市：21日)



今後の管理について説明

黒大豆栽培研修会が開催され、普及センターからは、今年度の黒大豆の生育状況と、開花期を含む今後の管理のポイントについて説明しました。

「3密」を避けながら研修会が開催され、普及センターからは、土寄せが未実施のほ場では7月下旬までに作業を済ませ、梅雨明け後の干ばつ時には早めに畝間かん水を行うよう説明しました。その後、実際のほ場を見ながら、質疑応答を行いました。

普及センターは、今後も特産黒大豆の生産安定に向けて支援していきます。

場 所 南丹市日吉町殿田

出席者数 11名



ほ場を見ながら質疑応答

南丹市日吉町 昨年実績：出荷量3.1t、6,100千円

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年7月

普及活動報告

南丹地域の新たな共選品目を目指して ～ブロッコリー栽培研修会開催～

(京丹波町：28日)



研修会の様子

JA京都京野菜部会が新たな共選品目として、この春からブロッコリーの栽培を検討され、普及センターは品種や作型の検討、栽培こよみの作成等について支援してきました。今秋からの部会役員を中心とした試験栽培の開始に当たり、研修会が開催され、普及センターから管理のポイントや注意点について説明しました。

参加者からは、市場価格や栽培技術面の質問や意見が多く出され、栽培に向けた熱意が感じられました。管内各地での試験栽培の実践に向けて、普及センターは引き続き支援を行っていきます。

場 所 JA京都丹波支店

出席者数 14名

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年7月

普及活動報告

小豆の生産量確保に向けて ～梅雨明けの遅れに対応～

(亀岡市：31日)



梅雨明け後の小豆栽培予定ほ場

本年は梅雨明けが大幅に遅れたため、小豆のは種が遅れています。そこで、少しでも生産量を確保できるよう巡回指導を実施しました。

排水溝の整備で速やかに水を引かせることや、は種遅れで生育が小さくなる恐れがあるので種子量に余裕があれば株間を狭めること、可能な限り8月5日までは種を進めるなどを呼び掛けました。

普及センターは、今後も気象条件に対応した生産技術の支援を継続します。



タスクチームの資料を使い、は種指導

場 所 亀岡市馬路町

出席者数 5名

南丹市地域の小豆栽培面積 137ha (うち省力機械化栽培 96ha)

京都府南丹農業改良普及センター